

# 義太夫

義太夫協会会報  
第45号

平成元年6月20日  
社団法人 義太夫協会発行  
〒104 東京都中央区銀座  
6-18-2 新橋演舞場 B2  
TEL (541)5471

## 本牧亭のことなど

義太夫協会会長 田 辺 秀 雄

今会員が一番心配していることは今年の三月に新聞やTVなどで報道された本牧亭の廃業とそれによる本協会の公演のことであり、と思う。その公演は現在毎月二十、二十一日の両日こゝで行われている。その歴史はもう四十年近くなるという。だから古くからの会員などはすっかりこゝの高座に慣れてしまっていて、協会と本牧亭とは切り離すことが出来ない程になっているようである。そこでこの突然のニュースは会員に大きい衝撃を与えた。

本牧亭が危機にあるという噂はその周囲ではよく言われていたことであるが、持ち主の石井英子さんはこゝに大きい愛着を持って居られ、御高齢にも拘らず何とか続けて行きた

いと言われていたので、未だ暫くは大丈夫と  
思っていたのだが、こゝに至っては止むを得  
ぬと思う。その原因は色々あるかも知れない  
がともかく最近の著しい地価の暴騰が大きい  
と思われる。しかもこゝで行われている芸能  
は文化的に見て重要なものであるにも拘らず、  
経済的には決して恵まれているとは言えない。  
よくこゝを今迄持ち堪えて来られたと感謝せ  
ざるを得ないのである。

本牧亭の営業は本年一杯で、一般の公演は  
八月までということだが、協会の二十、二十  
一日の公演は今までの深い縁による御好意で  
十二月までは何とか続けられそうである。  
その後は如何なるかということは先日来幹

部によって調査、協議、協会の趣旨をよくわ  
きまえて交渉なども行いつゝある。未だ来年  
のことなので詳しいことは言えないが幸い各  
方面の御理解が得られそうである。私はこの  
ことで協会の事業を縮小してはならないと思  
う。かえって会場が新しくなることによって  
協会が発展し、義太夫節の愛好者が増える方  
向へ何とか持って行くべきである。会員も今  
までの深いお馴染みから離れるのは淋しいと  
思うが、役員に任せて欲しい。

さて私もこの協会の会長をお引き受けして  
から三年になった。始めに一期だけというお  
約束だったので、こゝでどなたかにバトン・  
タッチを申し出たのであるが、大方の強い懇  
留によってもう一期ということになった。実  
は私は昨年病氣入院したほどで、激務は無理  
なのである。その為私は勿論条件をつけた上  
なのであるが、その中には協会の近代化も含  
まれていた。今のまゝでは時代から離れ若い  
世代を育てるのは難しいのではなからうか。  
他の同種の協会とも比較して考える必要があ  
る。長くなるのでいずれその中にそれらを発  
表したい。

本牧亭



## 引 き 際

相談役 豊 澤 猿 三 郎

人間、まして芸能人は引き際が大切だと思  
います。が、此の度越路大夫氏の引退には驚  
きました。あの立派な芸を離れて引退、新聞  
紙上で見ますと、記者会見の折「肩書きや高  
齢を売り物に舞台に出る、そんなミジメな人  
間には成りたくない」とのお話でした。

私は、国立劇場へ十五日に僅かな時間をさ  
いて拜聴に行きました。越路氏とは戦前から  
のお付き合いで、いつも結構に拜聴して居ま  
すが、此の度の「佐太村」は息もつがれませ  
ん。十六日に又行きました。十九日には多少時  
間が有りましたので、楽屋へお訪ねして色々  
談で時を過ごし、又客席へ廻って聞かして載  
きました。訴訟の件の白太夫の酒脱、腹切り  
に成ってからの白太夫と八重の嘆きで「泣く  
な。アイアイ」の取りやり、段切りの「無常  
の桜」の所なぞ文楽座で拍手を禁じられて居  
るお客様もたまり兼ねての万雷の拍手。幕が  
下りても当分の間、鳴りが止みません。ロビ  
ーへ出ましたら行列なので何かと思いましたが  
、売店で越路氏のテープを争って求めるお  
客様でした。無論、途中で売り切れまし  
た。廿日の朝NHKの放送なので複製させて載  
きました。

未だ七十六才で居られる、此の先十年は大  
丈夫と思いますが、越路氏は衰えてからの芸  
は、御客様にご無礼に成る故とかたい決心で  
居られました。人形遣いの或る大家は、晩年  
耳も眼も不自由になってから、弟子に手を引  
かれて、舞台へ出て、椅子へ腰掛け、「酒屋」  
のお園のさわりを遣ったとか。けれども、そ  
れで名声がいや増したというふうには私、聞  
いておりません。芸術院も人間国宝も台無し  
です。そう申す私も四年前、八十八才まで舞  
台へ上って居りましたが、ご親切な方や、家  
族の者のすすめ、舞台を締めました。今思  
えば、シワクチャな白髪頭でよく舞台へ出た  
ものと、今更恥ずかしく思っています。お  
話が横へはずれました。

落語の文楽師匠は、十八番の「大仏餅」を  
斬り中、一寸二三秒の絶句をしました。お客  
様は気がつかなかったのですが、ご自分は大  
変に恥じて「何十年やらせて載いた斬で絶句  
するようでは、先人に申し訳ない」と其の夜  
限り生涯高座へお上りになりませんでした。  
横綱の佐田の山関は、或るハワイ出身の関  
取に破れ「日本国技の角力が外国出身の人に  
負けては、横綱の権威に拘わる」と其の夜協

会へ引退届けを出し、髷を落としました。関  
脇の栃赤城関は、或る事情が頭にきてどんど  
ん下がって遂には十両からも消えました。廃  
業したと思っていました。昨年ご招待を受け  
て国技館へ参りました。土俵際で早くから見  
物させて載きました。アッ、栃赤城が幕下に  
居ました。愈其の番が来ました。肉は落ち、  
肌色は消えて、幕下では大銀杏も結えず、塩  
も水も紙も仕切り直しもさせません。息子の  
様なお角力さんに負けました。土俵際の名技と  
いう言葉まで作らせ、沢山の金星、銀星、三  
賞なぞ数え切れない程持っている栃赤城。針  
金のようなサガリに懸賞を挟んで威風堂々引  
きあげた彼が、今は縄のようなサガリをぶら  
下げて、シオシオ引きあげる後ろ姿を見て、  
私は眼が熱くなりました。栃赤城さんよ、も  
う一度栃赤城関という處まで上がって下さい。  
私は前からあなたが好きなので言うのです。  
怒らないで堪忍して下さい。  
ご退屈さまでした。

父・鶴澤才造の八十回忌、母の六十回忌の  
供養と合わせて、自分の満九十才を心祝とし  
て、協会へ金百万円寄付致します。





## 戦後の女流義太夫

守 美 雄

第二次大戦の戦災の痛手は大きく、まだ東京の復興もまもなくならなかった昭和二十四年の秋、私は芝西久保巴町にあった竹本素女さんの宅を訪れた。戦後の女義太夫界の状況を聞きたかったからである。

昭和二十年に空襲で焼失する寸前まで浅草の東橋亭では、毎月何日間か女義が掛っていた。この席は、大正十二年の関東大震災で、女義席がすっかり消滅し、衰微した女義の復興のために古い新派の俳優だった水野好美の弟さんが昭和十年頃に私財を投じて再興したといわれる席で、現在の雷門二丁目の表通りから、細い露地を入ったところにあった。建物はかなり古い木造二階建てで、二階が寄席になっていた粗末なものであったが、場内の雰囲気は、まことに情緒豊かなものであった。素女さん一門、綾之助一門など顔振れがよく出演していたのを覚えていた。

お客は二十人か三十人の日が多く、時には七、八十人が入っていることもあった。僅かなお客さんであったが、いづれも義太夫通で、昔の「どうする連」らしい年配の人が大部分であった。

私は明治、大正の女義全盛期のことは本で

読んだり、話に聞いているだけだが、お年寄りの中には、当時の女義席の情景が偲ばれると昔をなつかしむ人が多く、よく「どうする、どうする」の声も掛っていた。

このさゝやかな東橋亭に、ほのかに感じられる明治の名残りを求めて、まだ若い学生であった私達は数人の仲間とよく、この席に出掛けたものである。

味気ない戦時中に、僅かに残された明治のロマンティズムの世界であり、心のオアシスだったのである。

私は、新聞記者になったが、間もなく招集令状を受けて軍隊に入り、戦後数年間の海外での抑留生活を終えて東京に帰ってきたが、女義の公演の話など全く耳にしなかった。

再び新聞社にもどった私は、素女さんに会って戦後の女義界の現状を聞き、早速記事にした。

素女さんの話では、まだかなりの女義が健在で、それぞれ苦労をしながら、芸を続けているとのことであった。

この取材をきっかけに、有志の人達が、当時東京に在住していた女義の方々に呼びかけて、団結して公演を開催しようということに

なり、数日後、素女さん宅に約二十人の女義の人々が集まり、ひとつの組織を結成することにした。

その組織の名称は「女流義太夫連盟」とすることに決定した。

この「女流義太夫」の名称は、私が提案したもので、それまでの「娘義太夫」「女義太夫」の名称では、組織の名としてふさわしくなく、すこしでも品位の高いものにしたいたいという願望からであった。

その後、各所で「女流義太夫」の看板が掲げられるようになったが、戦前には用いられなかった名称である。

当時の主な顔振れは、太夫には素女、綾之助(先代)、土佐広、小津賀、素界、住若、重之助、長春、越駒、東朝、三味線に清一、猿幸、三生、駒登久、清二、中堅として、素八、駒龍、綾枝(現綾之助)などが名を連ねていた。

女流義太夫連盟結成の記念公演が昭和二十五年春、浅草松屋六階の隅田劇場で開かれた。

その出し物は「妹背山婦女庭訓」の通しという女義界としては劇的な企画で、その中には「芝六住家の段」といった珍らしいものも出された。

戦前からの熱心なファンが詰めかけたことは勿論、客席には、歌舞伎の友右衛門(現雀右衛門)、段四郎(先代)の顔も見られた。

この公演が契機となって、上野本牧亭での毎月の定期公演が開かれることになって行ったのである。



新聞記者であった私は、戦後唯一の講談の定席である本牧亭によく取材に訪れていたが、たまたま席亭の石井さんに「女義を掛けて見たらどうですか」と話を持ち出したところ、石井さんは女義にはかなり関心を持っており、「是非やってみよう」ということになった。そこで、女流義太夫連盟の人々と相談し、当初は毎月五日間の定期公演を行うことに決まった。

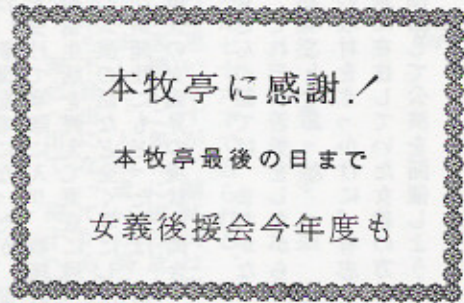
第一回の公演には総師の竹本素女も出演、各新聞も「女義復活」などの見出しで取り上げた。当時この反響はかなり大きく、地方から懇々上京して、本牧亭の義太夫を聞きにくるお客もあつた程である。

私にはまだ昨日のように感じられるが、あれからすでに四十年の才月が流れてしまった。この本牧亭も今年限りで席を閉じるといわれ、戦中から戦後にかけての数々の懐かしい思い出が私の脳裏によみがえってくる。

本牧亭は時代の波に抗し切れず席を閉じるが、男の太夫には表現できない魅力をもった女流義太夫は場所が変わっても立派に公演を続けて貰いたいと念願している。

〈守美雄(もりよしお)氏の横顔〉

元東京新聞記者。学生時代より歌舞伎を研究、浄瑠璃の悲劇の特性等の研究を経て、女流義太夫の世界に入る。昭和29年「竹本素女物語」を執筆、戦後の女流義太夫の復興に尽力。その後、かたばみ座の代表理事として小芝居の存続に心血を注ぐ。本牧亭閉鎖の発表にあたり、原稿をお願い致しました。(編集部)



本牧亭女義後援会御報告

(昭和63年4月～平成元年3月末日)

[収入の部]

高野 俊雄様	129,500円
池田 弘一様	100,000円
竹本 朝重御連中様有志	100,000円
竹本 駒之助御連中様有志	100,000円
松井 一男様	30,000円
渡辺 兼佐様	30,000円
	<hr/>
	489,500円

[支出の部]

芸術祭生花	20,000円
鶴沢駒登久叙勲記念生花	20,000円
保存会会員交通費補助	20,000円
東西交流会反省会	29,500円
	<hr/>
	89,500円
差引	400,000円

本牧亭の女流義太夫公演を応援しようではありませんかと、生意気らしく声をかけさせて頂きましてから早いもので三年目、おかげさまで、昨年は芸術祭参加も果すことができましたし、月々の公演も両副会長はじめ役員の皆さんが自分の役のあるなしにかかわらず楽屋に詰め、若手の指導にあたり、舞台の活性化を図ってそれなりの成果を上げました。人間国宝・土佐廣さんも元気な姿を舞台に見せて、女流義太夫の健在を如実に主張し続けてくれていますのに、何と本牧亭そのものが無くなるというようになってしまいました。せっかく御応援下さった方々もがっかりなら、協会の会員ひとりひとりが大なやみに悩んでおります。

というような時期でありますので、女流の皆さんの努力を評価して、また、かつていい思いをさしてくれた本牧亭を感謝を持って見送る意味も含めて、平成元年度も例のとおり「木戸をつむ」ということをいたしたいと存じます。つきましては、本牧亭の最後の日まで、本牧亭での公演が立派にできますよう、何分の御芳情が頂けますなら、言い出し人としたしましても誠に有難く存じます。規約や組織をつくらぬこともこれまでと同様です。御賛同下さる御方様がおいででしたら、御気持のほどを協会事務局の者へお伝え下さいますようお願い申し上げます。

平成元年六月

言い出し人 高野 俊雄  
池田 弘一



こんなにも御心配いただきましたー会員の声ー

「本牧亭が年内で閉鎖」のニュース以来、来年以降を気づかうお声、励ましのお電話等を沢山頂戴致しました。会費の払込用紙にもこんな一言を書き添えて頂き、「災転じて福」となすべく、決意を新たにしております。

本牧亭に代わる会場のアレンジ等皆様お忙しい一年になること存じますが、より一層の御活躍をお祈りしております。(K)

本牧亭閉鎖まことに残念です。貴重な文化遺産を残すためにも、なんとかならないのでしようか。(S)

海外に一年近くいっておりましたので会費の払い込みが大変おそくなりました。すみません。帰ってきて本牧亭のニュースを知り驚きました。出来るだけ公演にも行きたいと思っています。(T)

本牧亭のことをきいてショックです。義太夫を枯らしては大変です。気を落さず、新しい習慣をつけるのは大変ですが、努力して結束して下さい。(K)

(略)難しいことが山積しているようにお見受けいたします。運営の皆様方の御苦労さぞかしとお察しいたします。何よりも、素晴らしい芸をお持ちの師匠方を大事にして差し上げ、芸道以外のいろいろな御苦労を少しでも軽くして差し上げていただきたいと思います。(T)

荷物置き場に困っています

ー虫の良いお願いー

本牧亭の舞台の下には協会所有の見台肩衣などがギッシリつまっています。本牧亭の御好意でこれまで預かって頂きましたが、来年から、この膨大な荷物をどこに保管するのか？緊急大問題です。例えば、〇〇さんが保管場所を提供して下さいとか、〇〇のマンションなら格安で借りられるから、保管場兼けいこ場にも使えないか等々、耳寄りな情報は無いでしょうか。また、〇〇劇場なら〇〇さんの紹介で安く借りられる等、どんなことでも結構です。皆さまの広汎な情報をお寄せ頂ければ幸いです。

消息を御存知ありませんか？

義太夫教室OBの方々

義太夫教室も今年で42期をむかえ、只今50人以上の受講生が講義に実技に汗を流しています。さきに「義太夫教室OB演奏会」の通知を郵送したところ、下記の方々の分が転居先不明などで戻ってきてしまいました。

新同人(24期以降)だけでも七百人を越すのだから、同窓会組織のようなものをつくったらとか、情報交換の場を設けたらといった声が届いております。左記の方の消息とあわせて、同窓会の世話人候補(自薦でも他薦でも)についてもお知らせ頂ければ幸いです。(数字は卒業期 敬称略)

旧同人

- 太田 正文(1) 千葉 貴子(5)
- 熊谷 ユキ(6) 山田 晴康(8)

新同人

- 黒沼(旧姓野口)千津子(24) 高橋 三陸(24)
- 立野 成子(25) 恒川 和子(25) 青木康男(26)
- 今井 啓子(26) 坂戸 勝(26) 鈴木徳一郎(26)
- 平賀美智子(26) 溝井 哲夫(26) 斎藤 裕(27)
- 泉(旧姓宗藤)庸子(28) 木下 昭子(28)
- 松崎 勇樹(28) 島脇和子(芸名水木紅車)(28)
- 阿部すが子(30) 川村和彦(30) 高途奈緒美(30)
- 小山 雅子(30) 猪俣 文江(31) 阪口直一(31)
- 水木 榊与(31) 山崎正絵(31) 河野 誠子(32)
- 長谷川圭子(32) 迎 裕子(32) 行平 久子(32)
- 和合 清(32) 渡辺 陽子(32) 伊村 和子(33)
- 木村こずえ(33) 南寿栄子(34) 渡部 晶子(34)
- 安部 淳(35) 町田 孝子(35) 芦部 洋子(36)
- 才目 千晶(36) 竹下 敏之(36) 野口春美(36)
- 小泉 豊次(37) 鈴木 房枝(37) 塚本洋子(37)
- 中村恵理(37) 西本敬郎(37) 郷司美那子(38)
- 横関 桂子(38) ルベルティ・ポナベントゥーラ(38)
- 近藤千賀子(39) 山田麻由(39)



## 「一日体験教室」人気沸騰!

「教師のための義太夫講習会」で「一日体験教室 語ってみませんか?」味線を弾いてみませんか?」と呼びかけはじめて二・三年。各方面に働きかけていたのですが、今年にはいってから人気が急上昇、私共が戸惑うほどのモチモチぶりです。新聞で紹介された翌日の電話はキャッチホン(わりこみ電話)で、文字どおり受話器を置くひまなし。たちまち定員突破でお断わりする方が続出のため、アンコール版も行いました。以下はその特集です。

(会場はいずれも演舞場スペース・アルファ)

「一日体験教室 語ってみませんか」  
平成元年2月4日  
「世話と時代 壺坂靈験記・絵本太功記」  
指導 竹本 駒之助  
三味線 鶴澤 悠 美

①義太夫を語るのには ②他の邦楽の経験が  
③年代 ④性別 ⑤これまで義太夫に対して  
持っていたイメージ ⑥実際に語ってみてそ  
のイメージがどう変わったか ⑦感想

①初 ②卒 ③20 ④女 ⑤「寝床」の旦那  
のガラガラ声 ⑥ひとつひとつの言葉に心を  
込めている。人間の心を表現するすごい手段  
だ。⑦とてもいい気分です。下手ながらもそ  
れなりに酔え(?)ました。学校で邦楽をも  
っととりいれるべきだとも思っています  
が、今日はずっとその感をつよくしました。

①初 ②なし ③30 ④女 ⑤特別ななかった  
⑦時代物はストレス解消していいと思う。言  
葉がききとれなくて興味の外にありましたが  
自分が語ればその世界に近づけると感じます。

①初 ②なし ③50 ④女 ⑦日本語の美し

さがより感じられるように思いました。講師  
の指導ぶりに好感を持ちました。

①初 ②無回答 ③20 ④女 ⑤1難しそう  
2男のひとでないといけない 3でもやってみ  
たい 4内容がわかれば絶対オモシロイ  
⑥1難しい 2女のひとでもできるんだ ⑦  
もっとやってみたい 4絶対オモシロイ ⑦  
とてもおもしろかったです。先生も楽しい方  
でした。やはり私のように学生など若い世代  
の人間が興味をもたないとすたれるのではな  
いでしょうか。

①初 ②なし ③20 ④女 ⑤お年寄りのも  
のといった感じが：：：⑥む、難しい、体力  
もいりますね。⑦本当に楽しかったです。音  
痴をなおしてからでなおしたいとー

①初 ②なし ③30 ④女 ⑤ものすごく力  
んで声はりあげる時、脳溢血をおこさないも  
のかと心配して見ました。⑥大きな声を出  
すのは気持ちのよいものです。

①初 ②なし ③20 ④女 ⑤娘義太夫のイ  
メージ ⑥華やかな舞台の陰には、長く厳し  
い修業が必要なのだなぁという印象 ⑦難し  
いなぁと思いました。邦楽をやっている家に  
生れた人だけが近付ける世界のような印象が  
ありますが、しろうとの人が教室に通ってブ  
ロになられた方も：：：という話をききびっ  
くりしています。

参加者56名 アンケート回答52名  
\*義太夫を語るの初めて 49名 経験あり  
2名(但し内2名は体験教室) 無回答1名  
\*他の邦楽の経験がある 13名 なし 35名  
無回答 4名  
\*年代 10代 1名 20代 18名 30代 13名  
40代 9名 50代以上 11名  
\*性別 男13名 女39名

以下、設問順に答えて頂きました。



①初 ②なし ③20 ④女 ⑦先生のつやのある声がとてもよかった。頭で音を追うという感じではなく、身体で音をとらえるという感じがとても面白いと思った。

①初 ②なし ③30 ④女 ⑤古い日本語は難しいと思っていました。⑥言葉としては思っていたよりわかりやすく新鮮でしたが、これほど音楽的とは思っていませんでした。かなり難しかったです。⑦女性が語るのを初めて聞かせていただいたので、より音楽性を強く感じました。

①初 ②なし ③30 ④女 ⑤何役もの役を一人で感情こめて語る。⑥本当に素晴らしい日本人でよかった。⑦大きな声を出すこと、感情こめその人物になり切ってしまう楽しさ、最高でした。

①初 ②なし ③20 ④女 ⑤どんなものかほとんど知らなかった。⑥難しい、体力を使う、でも声を出すのは面白いし、「太功記」の方はリズムやメリハリがすごくてびっくりした。⑦足が痛い、けど面白かった。音符にならなければいいのに。でもドレミファソラシドではない音が多いから無理かしら？あけるとか伸ばすとか記号があるといい。

①初 ②琴・地唄三味線 ③20 ④女 ⑤教師のための義太夫講習会に何度か参加して、今まで難しい・わからないといったイメージ

がずい分変わってきたのだが、自分で語るということに対してはまだかなりの抵抗があった。⑥実際に声を出してみると、調子のよさが感じられ、次第に皆と一緒に大勢を出していた。一人だったらはずかしくてなかなか大声は出せないと思うが、大勢ということもあり、はずかしさより心地よさの方が強く感じられた。

①初 ②なし ③30 ④女 ⑤むずかしい、言葉が分かりにくい。⑥アクセント、イントネーションを大切にしている、説得力があると思いました。⑦むずかしかったのですが、心をこめなければ語れないことがわかりました。義太夫節は日本語の音韻を大切にされた音楽だと思いました。語ることの大切さを再認識しました。

①初 ②なし ③30 ④女 ⑤日本髪を結った女の人が羽織ハカマで物語をうたう。

こんなイメージ



⑦面白かった。

(イラスト入のアンケートは初めてです)

「一日体験教室 語ってみませんか

— アンコール版 —

平成元年4月15日

「絵本太功記」

指導 竹本 駒之助  
三味線 鶴澤 悠 美

参加者50名 アンケート回答47名

\*義太夫を語るのには 初めて43名 経験あり4名(但し内4名は体験教室)

\*他の邦楽の経験がある24名 なし23名

\*年代 10代1名 20代4名 30代13名 40代

9名 50代以上19名 無回答1名

\*性別 男15名 女32名

①初 ②なし ③50 ④女 ⑤新内はうっとりと聞きほれるもの、義太夫はその点取り付きにくかった。⑥身体があつくなるほどコーンしました。素晴らしいです!

①初 ②長唄 ③30 ④女 ⑤太夫さんと三味線がどうしてあんなに間がよく合うのだろうか。⑥間を合わせる感じがいかにか難しいかわかりました。

①初 ②清元 ③30 ④女 ⑤ダイナミック、リズムカル ⑥難しい、声の出し方がわからない。⑦集団稽古だと気軽にできるが、人の声で自分の声が分からなくなってしまふ。



①初 ②なし ③30 ④女 ⑤むずかしい  
 ⑥おもしろいなあと思いました。歌と語りとが  
 いろいろあって、口調を覚えるのに大変でした  
 が、お腹の底から声を出して語る事は、はず  
 かしいものがありました。⑦でも気持ちの  
 良いものと思えました。⑦義太夫の「ギ」の  
 字も知らない私が、先生について皆さんに囲  
 まれてなんとかごまかしながら語られて大変う  
 れしく思いました。

①初 ②なし ③30 ④女 ⑤日本の古典と  
 いうだけでまるっきり区別はつかない。⑥こ  
 んなに力強いものだとは思わなかった。⑦は  
 じめは声を出せなかった。最後の方になって  
 やっと少しだけ出せるようになったので、も  
 っと思いっきり声を出したら気が良いのだ  
 ろうと思った。

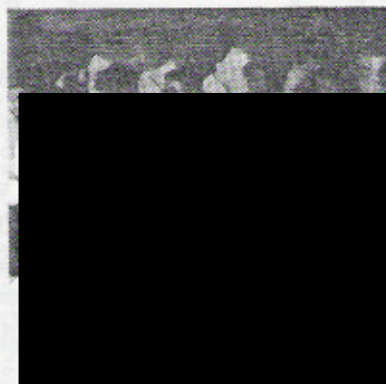
①初 ②幼少時代に三味線を少々 ③50 ④  
 女 ⑥ふし廻し、発声法などとてもむづかし  
 いと思いました。⑦両先生の熱心な教えぶり  
 で、大変好感を持ってました。

①初 ②新内・小唄・端唄 ③50 ④女 ⑤  
 難しい、声が続かないと思っていました。⑥  
 少しわかってきました。⑦端唄・新内の教室  
 を持っていますので、教え方その他非常に参  
 考になりました。

①二度目 ②なし ③20 ④女 ⑤前回出席  
 し楽しくなった。⑦前回に比べ難しかった。

①初 ②なし ③60 ④男 ⑤何を語って  
 いるのか聞き取れない、眠くなる。⑥筋が判  
 る気がする、又やってみたくなりました。⑦大  
 変満足です。駒之助さんのユーモアたっぷり  
 の教え方に感心しました。

①初 ②なし ③40 ④男 ⑤社長のお道楽  
 ⑥道楽では分からない情緒の世界なんです  
 ね。⑦情感のなさに自己嫌悪。



不思議と、今回も  
 女性が圧倒的に多い。

①初 ②なし ③30 ④男 ⑤平板 ⑥変化  
 にとんだ語りだなと思いました。⑦大きな声  
 を出すのがこんなにむずかしいとは思いま  
 せんでした。足がしびれてしまいました。先  
 生のお話が面白くわかりやすかったです。何  
 となく義太夫というものが少しわかった気  
 がしました。初めは出なかつた声もだんだ  
 ん大きくなって、気持ちよかったです。リズ  
 ムと入り方がむずかしいですね。

「三味線の一日体験教室」  
 平成元年5月13日  
 指導 竹本 弥乃太夫

参加者49名 アンケート回答47名

\*三味線を弾くのは 初めて32名 経験あり

15名(但し内2名は体験教室)

\*他の楽器の経験がある 27名 なし 16名

無回答 4名

\*年代 20代 11名 30代 14名 40代 9名 50

代以上 13名

\*性別 男12名 女35名

①三味線を弾くのは ②他の楽器の経験が  
 ③年代 ④性別 ⑤感想

①初 ②なし ③20 ④女 ⑤初めて弦があ  
 るものをさわったのですが、難しく、早く  
 途中から追い付かなくなってしまった。でも  
 何となく感じがわかって良かった。

①初 ②ギター・ピアノ ③20 ④女 ⑤パ  
 チがあんまり重いのでびっくりしました。譜  
 の読み方をもう少し教えていただければ：

①初 ②ピアノ ③20 ④女 ⑤聞いている  
 だけだと三味線の人は軽々とひいているよう  
 に見えるが、実際に自分でやってみると、と  
 ても大変だということがよくわかった。



①新邦楽 ②ピアノ ③40 ④女 ⑤横箏演奏をもう少し聴かせて頂きたかった。

①長唄 ②ピアノ・尺八・ひちりき・しの笛 ③20 ④女 ⑤進行が早く、説明が不十分かもしれないと感じます。生演奏(プロの方の)が是非聞きたかったです。

①祖母の三味線をいじる程度 ②アルトサクソフ・クラシックギター ③20 ④女 ⑤三味線は単純なつくりだけど、その分ひく人の心がこめやすい楽器だと感じました。



「どうして思うように手が動かないんでしょ」  
会場は、演舞場スペース・アルファ

### アンケートに代えて

小林 俊範

先日は貴重な体験をさせていただきありがとうございました。もうございました。

歌舞伎の舞台などをみていまして、義太夫や長唄、清元などに興味をもっておりました。

オペラやバレエと同様に、それら音楽の果たす役割(心情や状況描写)に心底感心していただきましたので、ほんのすこしでも太極にふれることができても、幸せ"なひとときをすごすことができました。

以下は思いつくなままの感想です。

・わずかな時間でしたが、とにかく楽器をもつて、弾くまねごとができて最高にうれいすばらしいところみですね。

・わたしたちが芸術・芸能を鑑賞するのは、演奏家の表情やプロの芸を堪能し、舞台を楽しまたいからです。観客としての自分と舞台とは距離があります。一方で舞台への憧れ、つまり自分もやってみたいという気持ちももっています。距離をこえることができたらしんなに素晴らしいか、かじるだけでも鑑賞の助けになるでしょうし、やることとみることは、相関関係にあると思います。ある種恐れをいだきながら、そんなことも観客は考えているのではないのでしょうか。体験教室の意味もそこにあるのだと思います。そういった角度からの工夫をされたいかがでしょうか。

・たとえば擬似舞台を体験させるレコーディングでもいいです(生なら最高)、私たちがひいたあと語りがつづくとか。

・何をぜいたくなくといわれそうですが、本牧亭の舞台でやれたら楽しいでしょうね。  
・単に教えるだけでなく、その過程で義太夫の魅力を伝えていただければ。  
・ほんのちょっとプロの演奏をききたか

った。

・ほんのちょっと芸談(三味線の神髄的なこと)をききたかった。

・義太夫教室からプロがでてくること。そういった方にも教えていただければ、より身近だし、素人のことがわかってよいのではないのでしょうか。

・義太夫だけでなく他の邦楽についても、義太夫協会が音頭をとって邦楽体験教室的なことをやっていただければと思います。

・二時間は短かった。あと一時間はやってみたかった。(ただし、正座だともたないもので)正座ではなくイスでやれないものでしょうか。私もそうですが、ほとんどが正座をにがてとしております。

・音感が悪いせいだと思えますが、最後の「じやり」という前後がよく理解できなかった。

・義太夫のこと、三味線のこと(各部の名称も)、語りのこと、等も簡単に教えていただければ。

・実践的なことで、バチのおろしかた、糸をどうはじけばいいのかわからなかった。とくに真ん中の糸。

◎以上、勝手なことを書きました。土曜日以降、あの三味線の感覚が残っておりまして、忘れがたい。自分ひとり特別な経験をしたような得意な気持ちです。「もう一度おやりになりますか?」ときかれましたら、「ぜひ伺います」とお答えします。

(芸団協事務局)



協会の動き

'89年1月より  
'89年6月まで

「昭和六十三年度」

- 1月5日 公演部会 於事務局
- 1月12日 義太夫教室風景 NHKテレビ
- イブニング・ネットワークにて生中継
- 1月20日 義太夫協会初春公演 於本牧亭
- 1月21日 義太夫協会公演「鶴澤駒登久叙勲記念演奏」 於本牧亭
- 1月23日 三味線係三味線整備 於事務局
- 1月30日 民間芸術等振興費補助金平成元年度事業計画書提出
- 2月4日 教師のための義太夫講習会「義太夫の一日体験教室」(文化庁助成) (6・7頁参照)  
於演舞場スペース・アルファ
- 4日 新春懇親会 於蓬萊閣
- 2月10日 公演部会 於事務局
- 10日 特別公演部会 於文明堂
- 2月15日 演舞場稲荷初午祭
- 2月18日 第4回義太夫教室OB演奏会 義太夫教室OB会主催・義太夫協会後援 於本牧亭
- 2月20・21日 第8回伝承者研修発表会(義太夫節保存会主催、義太夫協会後援、文化庁・東京都助成) 於本牧亭
- 2月26日 普及部会 於文明堂
- 2月28日 経理部会 於事務局
- 3月3日 公演部会 於事務局
- 3日 三味線係三味線整備 於事務局
- 3月5日 '89都民芸術フェスティバル 第19回邦楽演奏会 女流が出演した。 於第一生命ホール
- 3月7日 編集部会 於事務局
- 3月8日 定例理事会 於築地ホワイトビル
- 3月13日 女流後継者育成事業「萬才」研修(野澤喜左衛門師指導) 於さらしな乃里
- 3月14・15日 第9期竹本研修・第4期鳴物研修修了発表会 第10期歌舞伎俳優研修・第10期竹本研修発表会 於国立小劇場
- 3月20日 義太夫協会公演会 第4回豊澤仙廣賞授与式 竹本素丸が受賞した。 於本牧亭
- 3月21日 緊急理事会 於さらしな乃里
- 21日 義太夫協会公演会 竹本越京芸団協助成新人奨励賞受賞 芸団協常任理事・松島庄十郎師より祝辞 於本牧亭
- 3月23日 第12期文楽研修・第9期竹本研修・第4期鳴物研修・第6期寄席囃子研修修了式 於国立演芸場
- 3月27日 義太夫教室(文化庁助成)第41期修了 於演舞場スペース・アルファ
- 27日 義太夫節保存会 昭和63年度文化財保存事業実績報告書提出
- 「平成元年度」
- 4月2日 臨時理事会 於さらしな乃里
- 4月5日 公演部会 於事務局
- 4月10日 昭和63年度民間芸術等振興費補助金(青少年等芸術普及)実績報告書提出
- 4月15日 教師のための義太夫講習会「義太夫の一日体験教室・アンコール版」 (7・8頁参照)  
於演舞場スペース・アルファ
- 4月17日 選挙管理委員会 於文明堂
- 4月20・21日 義太夫協会公演会 21日は八王子車人形・西川古柳座特別出演 於本牧亭
- 4月26日 公演部会 於事務局
- 27日 平成元年度補助事業についてヒアリング 於文化庁会議室
- 28日 昭和63年度民間芸術等振興費補助金(青少年等芸術普及)額確定通知 於事務局
- 5月12日 公演部会 於事務局
- 5月13日 教師のための義太夫講習会「三味線の一体験教室」(8・9頁参照) 於演舞場スペース・アルファ
- 5月20・21日 義太夫協会公演会 於本牧亭



〈収入の部〉

会場募金箱(20・21日)	55,860円
当日入場料	37,000円
出演者扱切符代	95,400円
協会扱御寄付	209,840円
〔内訳〕	
佐伯 勇 様	20,000円
坂本 朝一 様	20,000円
佐野 俊三 様	20,000円
松尾 武市 様	20,000円
松前 重義 様	20,000円
和田 博 様	20,000円
池田 弘一 様	10,000円
竹本綾之助後援会様	10,000円
中村 初波奈 様	10,000円
横山 敏雄 様	10,000円
渡辺 兼佐 様	10,000円
内野 アキコ 様	7,000円
竹本 越道 様	6,500円
竹本 綾太夫 様	5,340円
加藤 清政 様	5,000円
竹本 朝重 様	5,000円
竹本 駒之助 様	5,000円
中島 古平 様	5,000円
鶴沢 駒登久 様	1,000円

収入合計 398,100円

心身障害児のための  
第18回特別公演  
収支決算報告

5月23・25・26日	寺「研修(野澤喜左衛門師指導)」
5月24日	於国立劇場稽古場
5月29日	於さらしな乃里
5月29日	義太夫教室第42期開講式 54名が受講中
5月30日	於演舞場スペース・アルファ
5月31日	保存会平成元年度交付申請書提出
5月31日	於文明堂
6月2日	於事務局
6月9日	於文明堂
6月9日	於東京会館
6月20日	義太夫協会会報第45号発行
6月31日	平成元年度・2年度補助事業概算 予算提出

〈支出の部〉

心身障害児のための寄付金	150,000円
本牧亭席料他諸掛	85,000円
旅費交通費	70,280円
通信費	37,270円
床世話・荷上げ他	34,500円
弾き合せ等諸経費	16,550円
諸雑費	4,500円

支出合計 398,100円

差引残高 0円

第18回チャリティ公演に御協力下さいまして有難うございました。今回もプログラム・切符等の印刷一切は協会常任相談役の高野俊雄氏がおひきうけ下さいました。

計 報

■竹本扇太夫師(正会員・義太夫協会理事・伝統歌舞伎保存会理事)  
平成元年2月7日逝去

(時代・世話・卜書き浄瑠璃すべてにわたって活躍、竹本4歌舞伎義太夫の最長老、第一人者でした。昭和53年 勲五等双光旭日章。49年以来、義太夫協合理事として協会運営に尽力して下さいました。享年86才)

■多田 節子氏(竹本染登師長女)

平成元年3月17日逝去

(会報34号 昭和60年5月20日発行に「竹本染登聞き書き」を寄せて下さった節子氏は染登師と同居されていましたが、この3月に亡くなられたため、染登師は東京の親戚宅へ転居されました。12頁参照)

■松岡 語松氏(常任相談役)

平成元年3月20日逝去

(松岡美術館館長。社団法人設立にあたり出資して下さいましたことを初め、以来義太夫協会をずっと後援して下さいました。引辞では「素義会の重鎮で、義太夫愛好が健康の素」と述べられていました。享年95才)

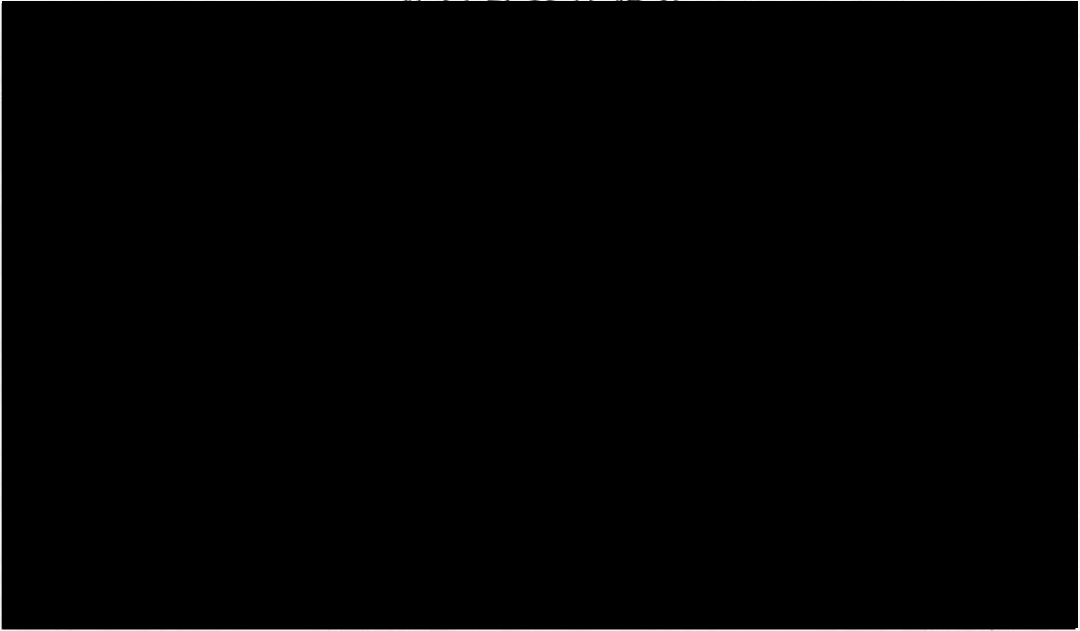
■黒河内昱夫氏(賛助会員)

平成元年3月8日逝去

御冥福を心よりお祈り申し上げます。



新入会員御紹介



住所(住居表示)変更



〈寄贈〉

山中 豊様 祖先祭スナップ写真多数  
キミ・コールドレイク様 女流義太夫に関する論文 一篇

\* Female Tayu in the Gidayu  
Narrative Tradition of Japan

\* Living National Treasure TAKEMOTO  
TOSHIRO And the Women's Gidayu  
Narrative Tradition

文楽編集部様 文楽第7号

神原 功様 女義番付文政11年版コピー

浄瑠璃系譜コピー

豊澤和男様 役者生没早わかり年表コピー

アガリ系 多数

三味線用諸部品 多数

野澤吉平様 床本ほか 一三冊

吉川志都子様 戸板康二著・忘れじの美女

編集後記

「本牧亭年内で閉鎖」のニュース以降、「本牧亭を見ておこう」という御客様が増えたようです。それに「一日体験教室」も異常なほど(?)の人気です。新しいお客様、本牧亭は消えても「女流義太夫公演」は消えませんが、来年度の会場は未定ですが、これを御縁に、どこへ引っ越ししても、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

お正月以来の発行で、六ヶ月以上も間が空いてしまい、また紙面の都合で、お寄せ頂いた原稿が掲載できなくなりましたことをお詫びいたします。